

ストロー状の口を持つ セミ・カメムシのなかま

セミ・カメムシのなかま（カメムシ目・半翅目）の種数は世界で10万種以上、日本には約3800種います。生息域はほとんどが陸上ですが水面や水中で生息する種もあります。セミ、ツノゼミ、ヨコバイ、アブラムシ、カメムシ、アメンボ、タガメなど姿が違って同じなかまです。

共通する特徴は、ストロー状の口吻を持ち、餌になる植物や昆虫に深く突き刺し、その汁や体液を吸って生活をします。また、蛹の時代がない不完全変態（卵→幼虫→成虫）で成長します。

セミ・カメムシのなかま（カメムシ目）をグループ別、科別に展示します。

<目次>

セミ・カメムシのなかま（カメムシ目）

◆同翅グループ

- ・頸吻亜目 セミ科、ツノゼミ科、ビワハゴロモ科ほか 2
- ・腹吻亜目 アブラムシ科、キジラミ科ほか 24

◆異翅グループ（カメムシ亜目）

- ・陸生種 カメムシ科、サシガメ科ほか 28
- ・水生種 アメンボ科、コオイムシ科ほか 46

○同翅グループ：口吻は頭部の下面または前基節間より生じ、前翅は全体均質の膜質です。静止の際は屋根状で止まります。

○頸吻亜目：口吻は頭部の基部より生じます。

○腹吻亜目：口吻は前基節間より生じます。

○異翅グループ：口吻は頭部の前方より生じ、前翅は基半分が硬い革質で先半分が膜質透明の半翅鞘です。

静止の際は腹部上に平らに置いて止まります。

○陸生種：生息域が陸上のものです。

○水生種：生息域が水中、水面や水辺のものです。

セミ科

セミのなかまは世界で約1500種知られています。日本には36種います。

幼虫は土の中で木の根から養分を吸収し脱皮を繰り返しながら数年～十数年かけて成長します。十分に成長した幼虫は土の中から出てきて近くの木に登り羽化します。成虫になったセミは数週間から1か月の間に子孫を残して一生を終えます。

エゾゼミ



(札幌中央局 1986 小型印)

ミンミンゼミ



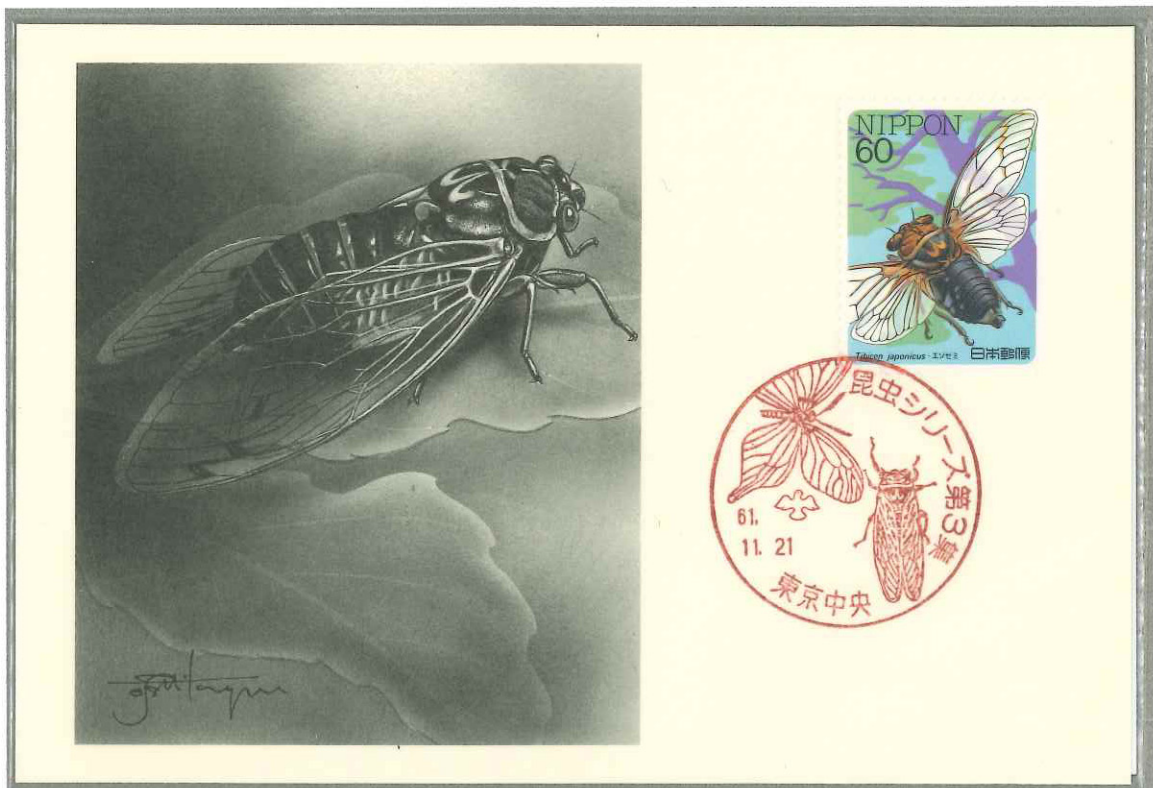
(日本 1961)
(暑中見舞はがき)

ミンミンゼミ



(屈斜路局 1986 風景印)

エゾゼミ



(日本 1986)

セミ科
ヒメハルゼミ



(能生局 1977 風景印)



(日本 1977 見本)



(茂原局 2013 小型印)

「蝉」の名は？

芭蕉がこの句を詠んだのは
1689年5月27日（現在の
7月13日）
斎藤茂吉は当初この蝉は※



(能生局 1977 特印)

※「アブラゼミ」と主張して
いたが、反論があり実地調査
の結果、山寺で「アブラゼミ」
が鳴くのは7月13日以降と分
かり持論を撤回して「ニイニ
イゼミ」という結論になった。

「閑かさや 岩にしみ入 蝉の声」芭蕉 奥の細道・山寺



(日本 1989)

セミ科

クマゼミ

(左) ヒグラシ
(右) ニイニイゼミ



(ブータン 1969)



(日本 2009 オリジナルかもめ〜る)

ツクツクボウシ



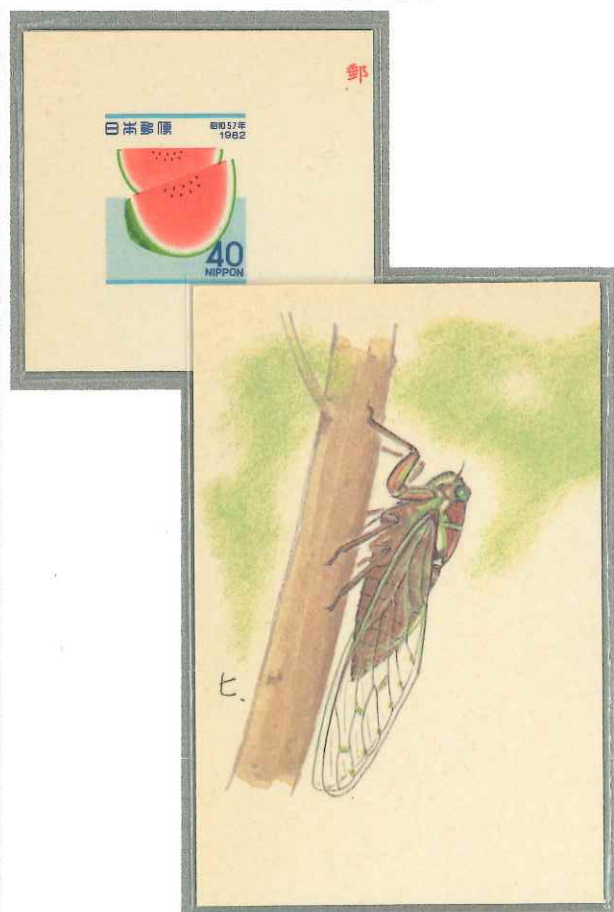
(韓国 2000 広告付きはがき)

(左) ヒグラシ (右) アブラゼミ



(日本 絵入りはがき 岡山・新見阿哲の昆虫)

ヒグラシ



(日本 1982 暑中見舞はがき)

セミ科
エゾゼミ



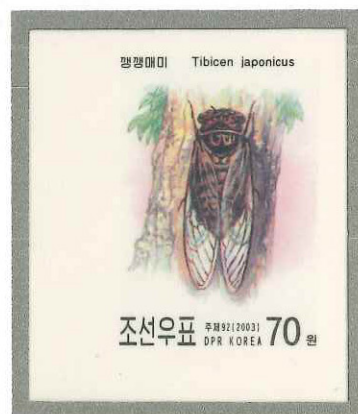
(北朝鮮 2003 切手帳)

エゾゼミの一種



(赤道ギニア 1978 無目打)

エゾゼミの一種



エゾゼミ

(北朝鮮 2003)
(切手付き封筒)



(ネビス 1989)

セミ科

セミ族の一種



(北ベトナム 1965 無目打)

イオバニイニイ



(ルワンダ 1973 無目打)

ミドリゼミ族の一種



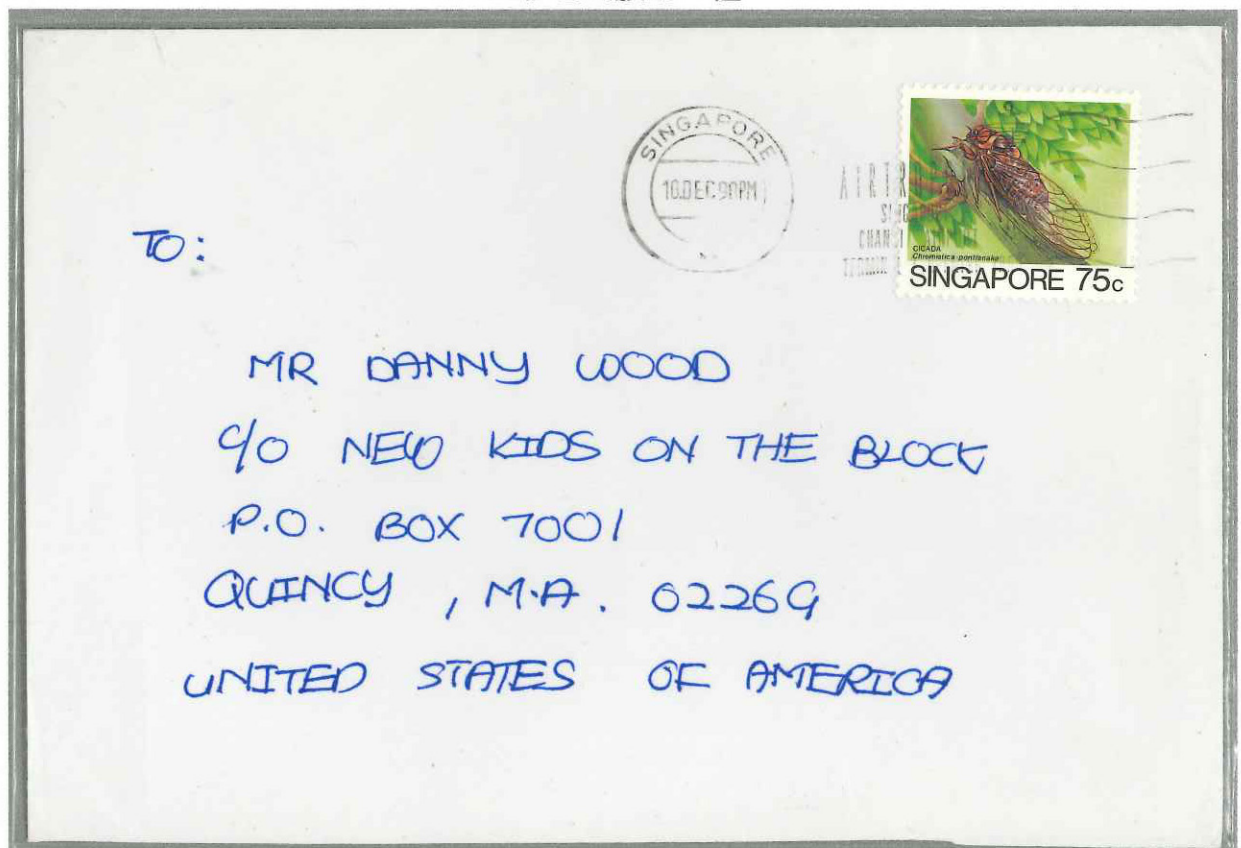
(北ベトナム 1965)

エゾゼミ族の一種



(シンガポール 1985)

エゾゼミ族の一種



(シンガポール 1986 再版)

セミ科

マレーオオゼミ



(切手帳)



(切手帳表紙)



(インドネシア 2003)

セミ科

世界最大のセミ・ティオウゼミ



(マレーシア 1998 プルーフ)



(マレーシア 1998)

全長：約100mm (頭から翅の先まで)

開長：約200mm (翅を広げた大きさ)

鳴く時間帯：明け方と日暮れ前から
日没直後

鳴き声：帝王にふさわしく低いが良く
響く声で鳴く

「ウーーン ファンファン
ファンファンファン」

セミの一種



(ツバル 2020)

セミの一種



(アルバ 2016)

スジアカクマゼミ



(香港 2023)

セミ科

タイワンクマゼミ



(台湾 2000)

セミの一種



(フィリピン 1988)

ヤマゼミ



(マルタ 2005)

Klapperichicen viridissima



(トルコ 1982)

セミの一種



(キルギス 2004)

アラブゼミ



(カタール 1998)

エゾゼミ族の一種



(ボスニア・ヘルツェゴビナ 2013)

チョウセンケナガニイニイ



(韓国 1991)

セミ科

トネリコゼミ



(フランス 1956)



(ウクライナ 2018)



(モナコ 1973)

アカゼミ



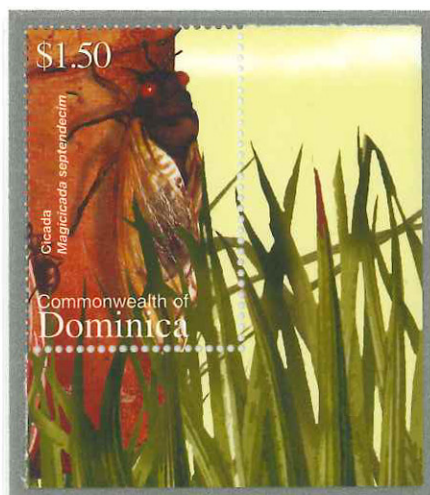
(フランス 1977)

ユウレイゼミ



(ギニア 2023)

セミ科
シュウシチネンゼミ



(ドミニカ 2002)



(ミクロネシア 2002)



(ギニア 2001)

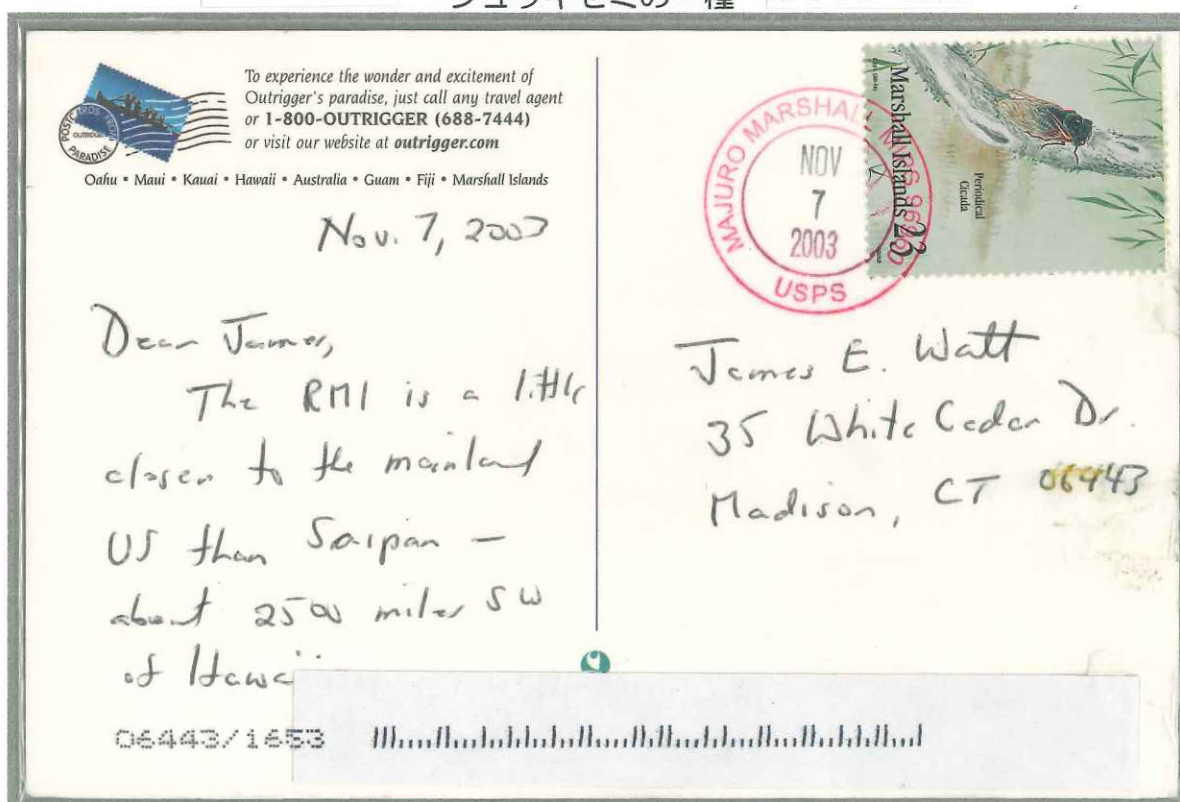


(ブルンジ 2012)



シュウキゼミの一種

(アメリカ 1999)



(マーシャル諸島 2002)

セミ科

ウガタニイニイの一種



(オートボルタ 1966)

ニイニイゼミの一種



(ケニア 2011)

セミの一種



(コートジボワール 1980)

セミの脱殻



(コートジボワール 1980)

ウガタニイニイの一種



(マリ 1967 デラックス・シート)

Venustria superba



(マダガスカル 1999)

Abrieta brunnea



Fractuosella darwini



Distantada thomaseti



Dinarobia claudeae



(モーリシャス 2002)

セミ科

セミの一種



(ウォリス・フツナ諸島 2001)

セミの一種



(ウォリス・フツナ諸島 2011)

Acraephia perspicillata



(ニカラグア 2003)

Kanakia gigas



(ニューカレドニア 1997)

ポリネシアホウセキゼミ



(仏領ポリネシア 1996)

Yanga seychellensis



(セイシェル属領 1988)

セミの一種



(ニュージーランド 1997)

セミ科

Anapsaltoda pulchra



(オーストラリア 2022)

Arenopsaltria fullo



(オーストラリア 2022)

Raiateana knowlesi (上) 羽化直後の姿



(フィジー 2010)

オーストラリアハナタカゼミ

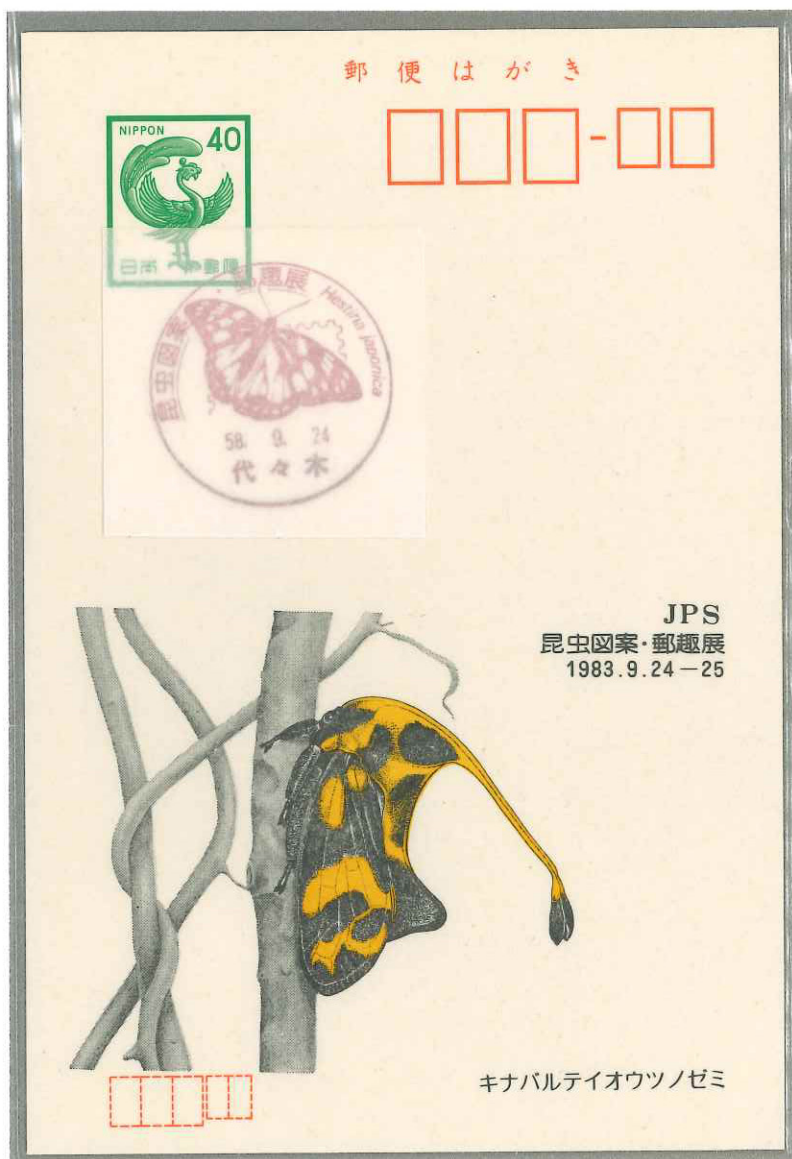


(オーストラリア 2022)

ツノゼミ科

世界で約3200種、日本には16種います。前胸が変形してできたヘルメット状構造など奇妙で不思議な形態をしています。大きさは5mm～10mm程度のものが多く、植物の茎や樹の幹などの上で生活している。

キナバルティオウツノゼミ



(日本 1983 昆虫切手部会 記念絵はがき)

(左上から下へ)

ツノゼミの一種

アリツノゼミ

カレハツノゼミの一種

ツノゼミの一種

(右上から下へ)

ハチマガイツノゼミの一種

ツノゼミの一種

ツノゼミの一種

メキシコエボシツノゼミ



(エクアドル 2015 切手帳)

ツノゼミ科

(左から) ミツカドツノゼミの一種 エボシツノゼミの一種 ミカツキツノゼミの一種
アリツノゼミの一種 ツノゼミの一種



(エクアドル 2015)

Odontoptera carrenoi



(ニカラグア 2003)

ツノゼミの一種

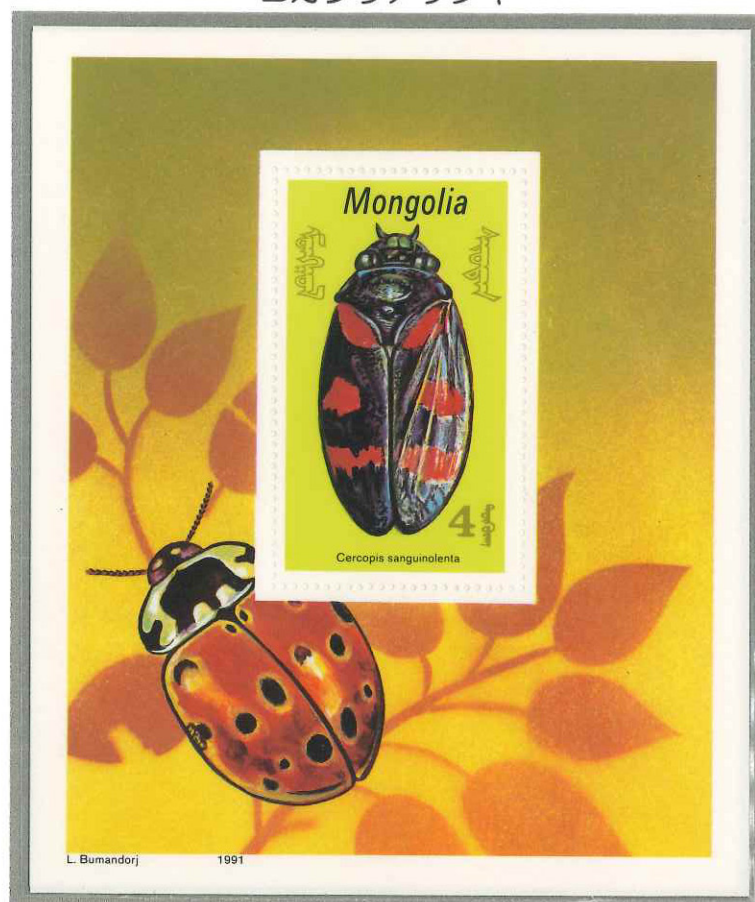


(コートジボワール 1978)

アワフキムシ科

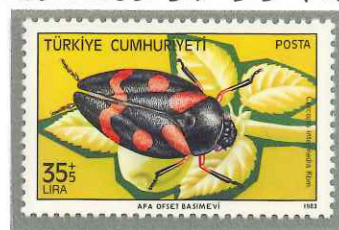
幼虫は、体の表面から出す液とほとんど水だけののような排泄物を脚で混ぜ
合わせ泡を作り、その中に隠れて生活しています。大きさは7~15mm程度
です。成虫はセミに似た姿で泡から出て飛んでいきます。

コガシラアワフキ



(モンゴル 1996)

ベニモンコガシラアワフキの一種



(トルコ 1983)

ヨロイアワフキの一種



(香港 2012)

アワフキムシの一種



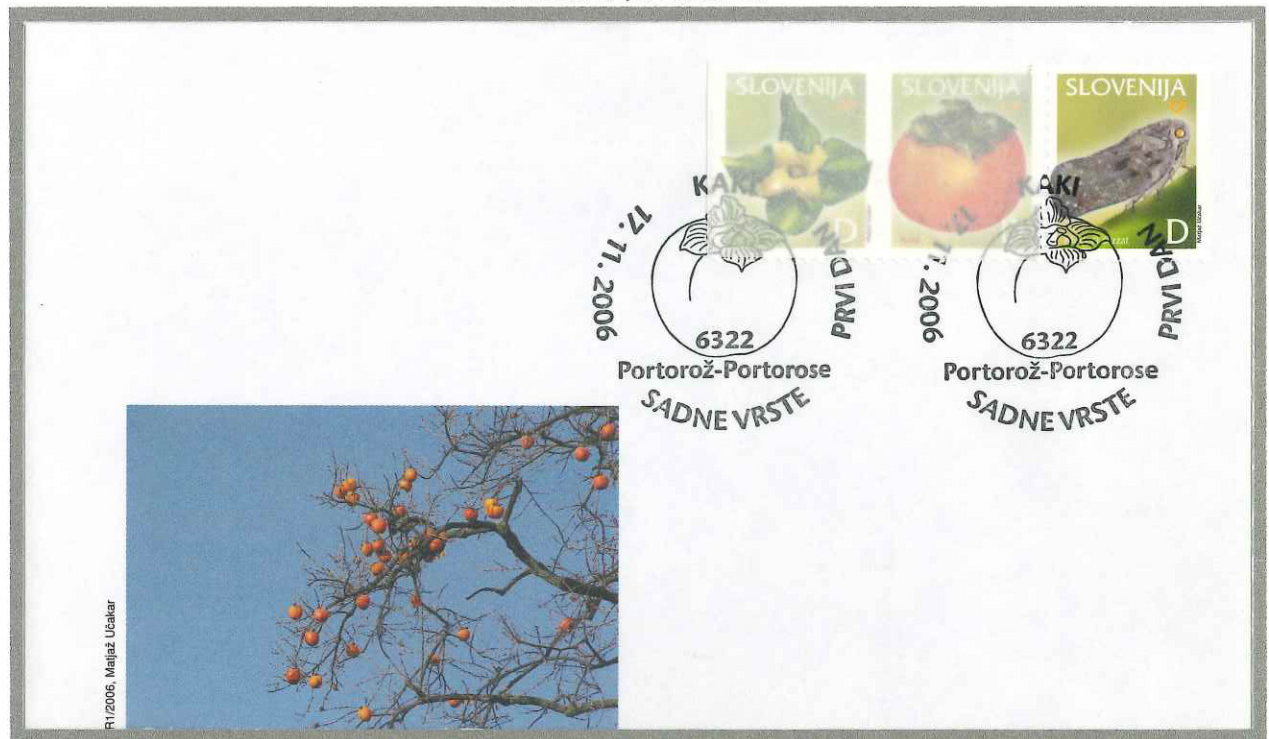
(ケニア 2011)

Aeneolamia vagla



(ベネズエラ 1968)

アワフキムシ科
Metcalfa pruinosa



(スロベニア 2006)

アオバハゴロモ科
オオベニハゴロモ



(ベルギー 2015)

ヨコバイ科

世界で約20000種、日本には約550種います。セミを小さくしたような姿をしています。名前の由来は警戒したとき横にずれながら歩くことからきています。大きさは3~15mm程度です。農作物の大害虫として恐れられています。

ヨコバイの一種



(赤道ギニア 1978 無目打)

Cicadella brune



(カンボジア 1993)

ツマグロヨコバイの一種



(サントメ・プリンシペ 2016)

オオヨコバイ科

(左から) *Ulopa reticulata*, *Streptanurus sordidus*, *Anoscopus flavostriatus*, *Macrosteles alpinus*



(フェロー諸島 1995)

オオヨコバイ科

Hortensia conciliata



(キューバ 1962)

ヒメヨコバイの一種



(クック諸島 2014)

Homalodisca coagulata



(フィリピン 2000)

ビワハゴロモ科

日本には分布していませんが、世界で熱帯・亜熱帯地域に500種以上います。
頭部が前方に長く伸び奇妙な姿をしていて、後翅は派手な色彩のものが多い。
大きさは40～100mmと大型です。翅の開長150mmに達するものもいます。

ユカタンビワハゴロモ



(エクアドル 1993)



(ベリーズ 1995)



(imprint 1996)



(ブラジル 1987)



(ニカラグア 1994)



(ニカラグア 2003)

アカバナビワハゴロモ



(マレーシア 2007)

ビワハゴロモ科

テングビワハゴロモ



(北ベトナム 1965 無目打)

ビワハゴロモの一種



(カーボヴェルデ 1988)



(ケニア 2011)

テングビワハゴロモの一種



(ベトナム 2018)



(ブータン 1997)

テングビワハゴロモの一種



(香港 2000)

ビワハゴロモ科

カシエ：テングビワハゴロモの一種

Copidocephala guttata



(ニカラグア 2003)

Phrictus quinquepartitus



(ニカラグア 2003)

Pterodictya reticularis



(ニカラグア 2003)

「インドの昆虫多様性を祝う」
セミナーの記念カバー

＜小型印＞
ヨコバイ科

Paradorydium dharwarensis



(インド 2019)

アブラムシ科

日本には300種以上います。植物の新芽や葉裏などに集団で寄生し汁を吸っています。アリが排泄物に含まれる甘露求めて集まってきます。アリとは共生しています。農作物には有害で、テントウムシが天敵です。大きさは1～4mm程度。

アブラムシの一種



(チュニジア 1996)



(トルコ 2020)



(トルコ 1980 発行案内)



(ジャージー 2002)



(ジンバブエ 2012)

アブラムシ科

モモアカアブラムシ



(スロベニア 2001)



(スロベニア 2005 再版)

カバワタフキマダラアブラムシ



(アイスランド 2007)

ワタアブラムシ



(モーリタニア 1989)

ネアブラムシ科

ブドウネアブラムシ



(ポルトガル 2020)

キジラミ科

セイヨウナシキジラミ



(スロベニア 2004)



(スロベニア 2005 再版)

コナジラミ科

タバココナジラミ



(アンゴラ 1994)

コナジラミ科

オンシツコナジラミの一種



(オランダ 1993)

ワタフキカイガラムシ科

アルメニアヒイロカイガラムシ



(アルメニア 2006)

マルカイガラムシ科

ナシマルカイガラムシ



(スロベニア 2005)

フラジカイガラムシ科

イセリヤカイガラムシ



(トルコ 1980)



(カーボヴェルデ 1988)

コナカイガラムシ科

Phenacoccus manihoti



(ルワンダ 1993)

カメムシ科

カメムシと聞いただけであの臭いが浮かび不快になる方が大勢いると思います。臭いはなかまとの警報信号であり、敵に対しては防御になる大切なものです。農業には有害なものが多く、世界で約40000種、日本に約800種います。大きさは5～25mm程度。

アカスジカメムシの一種



(ハンガリー 1980)



(スイス 2002)



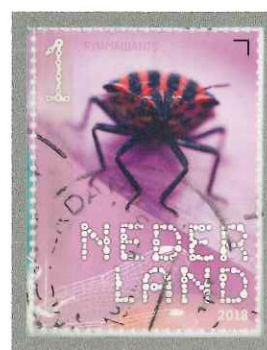
(トルコ 1983)



(ギニア 2001)



(ウズベキスタン 2023)



(オランダ 2018)

Antestiopsis lineaticollis



(アンゴラ 1983)



(カメルーン 1987)

カメムシ科

ジンメンカメムシの一種



(タイ 1989 切手帳)



(シンガポール 1985)



(シンガポール 1986 再版)



(ベトナム 1982 無目打)



(パラオ 2003)

カメムシ科

Chalcocoris rutilans

ミナミアオカメムシ

ミカントゲカメムシ

Tessaratomia papillosa



(ベトナム 1986)



(ベトナム 1982)



(北ベトナム 1965)



ミイロナガメ

キャリコカメムシ



(ブータン 1997)



(サントメ・プリンシペ 2016)



(タンザニア 1999)



(フィリピン 2000)

Chalcocoris rutilus



(ジンバブエ 1988)

カメムシ科

エデッサカメムシの一種



(コスタリカ 2017)

ブチヒゲカメムシ



(ウズベキスタン 2023)

カメムシの一種



(ケニア 2011)

カメムシの一種



(ウズベキスタン 2023)

Eurydema spectabile



(トルコ 1982)

クサギカメムシの一種



(ケニア 2011)

チャイロカメムシの一種



(トルコ 1983)

カメムシ科

ミナミアオカメムシ



(クック諸島 2013)



(ツバル 2001)

Edessa meditabunda



(アルゼンチン 2002)

Eocanthecona furcellata (幼虫)



(中国 2023)

Podisus nigrispinus



(アルゼンチン 1990)

アシアカカメムシ



(中央アフリカ 2015)

キンカメムシ科

キンカメムシの一種

ルリホシキンカメ



(ベトナム 1982)



(ポ領)ギニア 1953)



(スワジランド 1988)



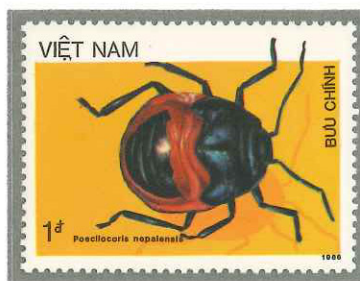
(ガンビア 2002)

キンカメムシの一種 (幼虫) ネパールアカスジキンカメムシ(幼虫)

ハバビロキンカメムシ

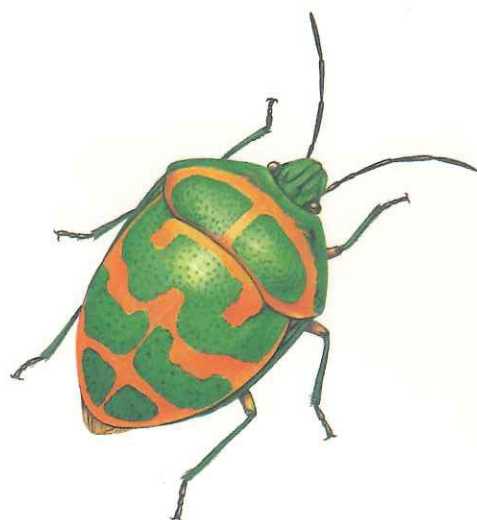


(ベトナム 1986)



(北ベトナム 1965)

アカスジキンカメムシ



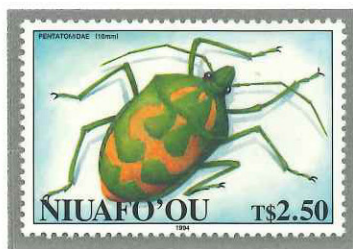
昆虫シリーズ (1)
アカスジキンカメムシ



(日本 1986)

キンカメムシ科

アカスジキンカメムシ



(トンガ ニウアフォオウ島 1994)

カワリキンカメムシ



(ニューカレドニア 1997)

ワタカワリキンカメムシ



(オーストラリア 1991)

ジャワオオキンカメ



(インドネシア 1970)

ツノカメムシ科

Acanthosoma haemorrhoidale



(ジャージー 2002)

ヘリカメムシ科

Anoplocnemis curvipes

Plectrocnemia cruciata



(モーリタニア 1970)



(1974 加刷)



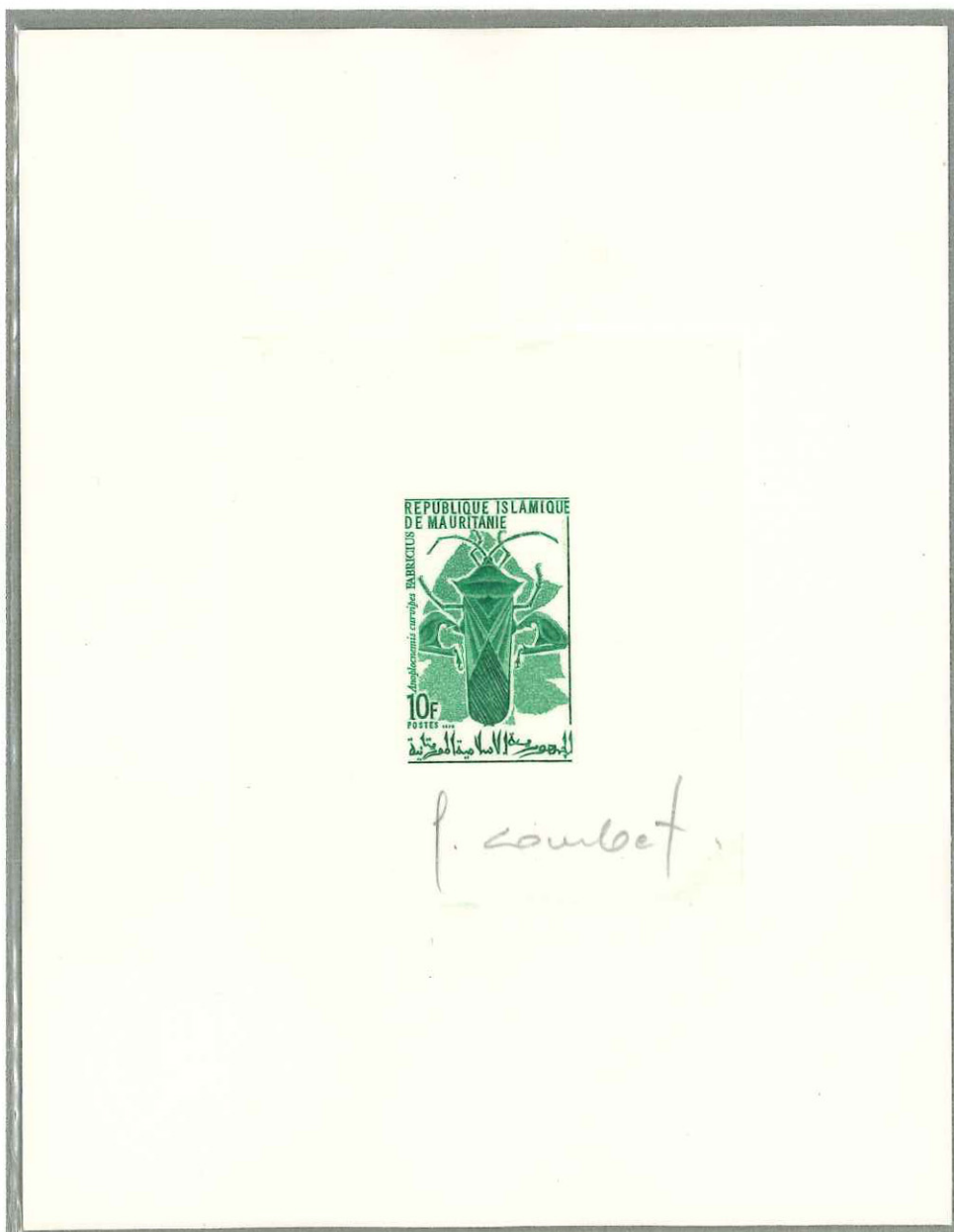
(フェルナンド・ポ 1965)



Anoplocnemis curvipes



(無目打)



(ダイ・プルーフ)

ヘリカメムシ科

Derepteryx groyi



Helcomeria spinosa



(ベトナム 1982 無目打)

Helcomeria spinosa



(ベトナム 1982)

Phyllomorpha laciniata



(ハンガリー 2010 見本)

アシビロヘリカメムシ



(クック諸島 2013)

ナガカメムシ科

メバチカメムシ

マダラナガカメムシの一種



(ブルキナファソ 2002)



(北朝鮮 1993)

マダラナガカメムシ



(スウェーデン 2013)

ナガカメムシの一種



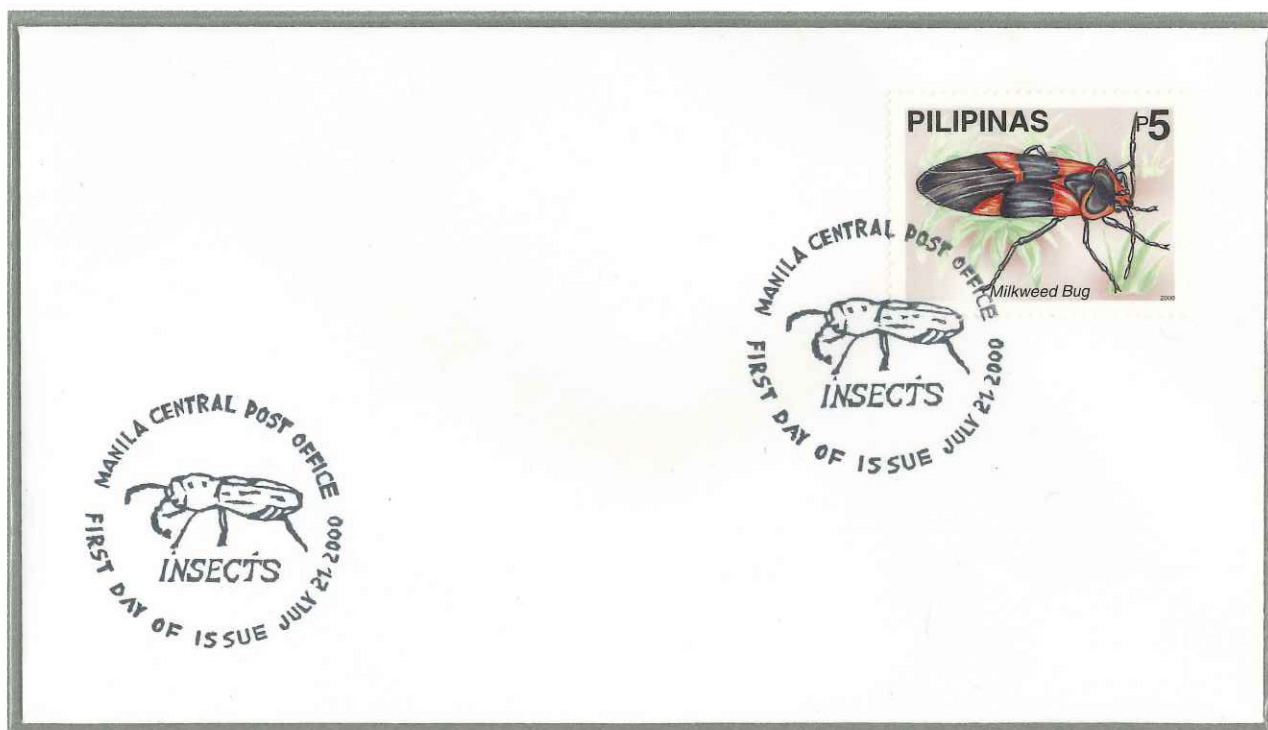
(ケニア 2011)

オオトウワタナガカメムシ



(カナダ 2010)

オオトウワタナガカメムシ



(フィリピン 2000)

クビナガカメムシ科

ナンキョククビナガカメムシ

Cocles contemplator



((仏領)南極地域 1972)



(マダガスカル 1991)



(1993 加刷)

ジンメンカメムシの一種

ホシカメムシ科

Dysdercus fasciatus



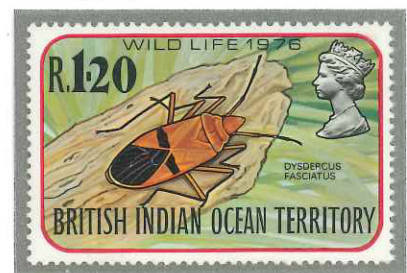
Malaysia 2007 30sen

Pianggang perosak buah
Dysdercus cingulatus

Serangga Sirl III

07.07.2007
BIRO FILATELI
KUALA LUMPUR

(マレーシア 2007)



(英領)インド洋地域 1976)

Dysdercus voelkeri



(ブルキナファソ 1992)

アカホシカメムシの一種



(ブルキナファソ 2002)

アカホシカメムシの一種



(ガンビア 2002)

Dysdercus volkeri



(ニジェール 1985)

ホシカメムシ科

ヒメホシカメムシ



(マダガスカル 1998)

アカホシカメムシの一種



(アンゴラ 1994)

ホシカメムシ科

フタモンホシカメムシの一種

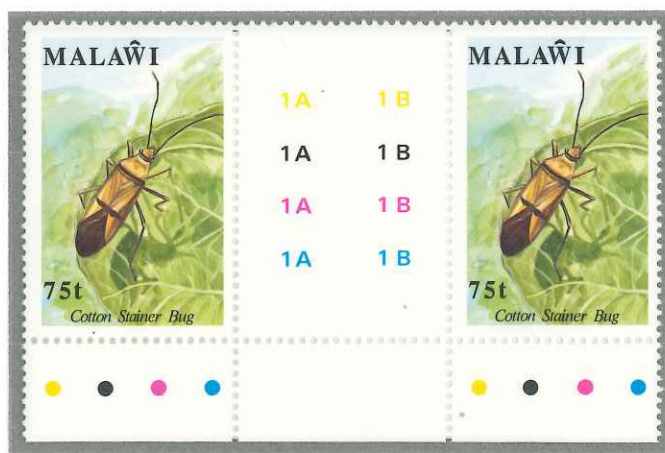


(ジャージー 2008)



(ブルガリア 1993)

アカホシカメムシの一種



(マラウイ 1991)

オオホシカメムシ科

ヒゲナガオオホシカメムシ



(ベトナム 1982 無目打)

ヒメヘリカメムシ科

Corizus hyocyami



(モンゴル 2004)

フリベニヘリカメムシ



(クック諸島 2013)

マルカメムシ科

Ceratocoris distortus



(ルワンダ 1973)

ホソヘリカメムシ科

タイワンクモヘリカメムシ



(カンボジア 1993)

カスミカメムシ科

チビカスミカメムシの一種



(ルクセンブルグ 1990)

カスミカメムシの一種



(クック諸島 2014)

Sahlbergella sp.



(ガーナ 1991)

シダカスミカメムシの一種



(ケニア 2011)



ミドリカスミガメの一種



(赤道ギニア 1978 無目打)

Distantiella theobroma



(カメルーン 1987)

Derasocoris rutilus



(トルコ 1980)

グンバイムシ科

Ammianus alberti



(ルワンダ 1973 無目打)

ランタナグンバイムシ



(アセンション 1998)

サシガメ科

サシガメは山野に生息します。肉食性で主に昆虫やクモなどを捕まえて、太く短いストロー状の口（吻）を突き刺し体液を吸収し餌とします。吸血性の種はシャーガス病を媒介するものもいます。世界で約6000種います。大きさは4~27mm程度。

モンシロサシガメの一種



(トーゴ 2011)

Phonoctonus grandis



(ルワンダ 1973)

オオマキバサシガメの一種



(アルゼンチン 1990)

Reduvius sp.



(モンゴル 2000)

Zelus luridus



(カナダ 2010)

サシガメ科

Sycanus falleni



(ベトナム 1982)

Tiarodes ostentans



Triatoma infestans



(マダガスカル 2001)

サシガメの一種



(ケニア 2011)

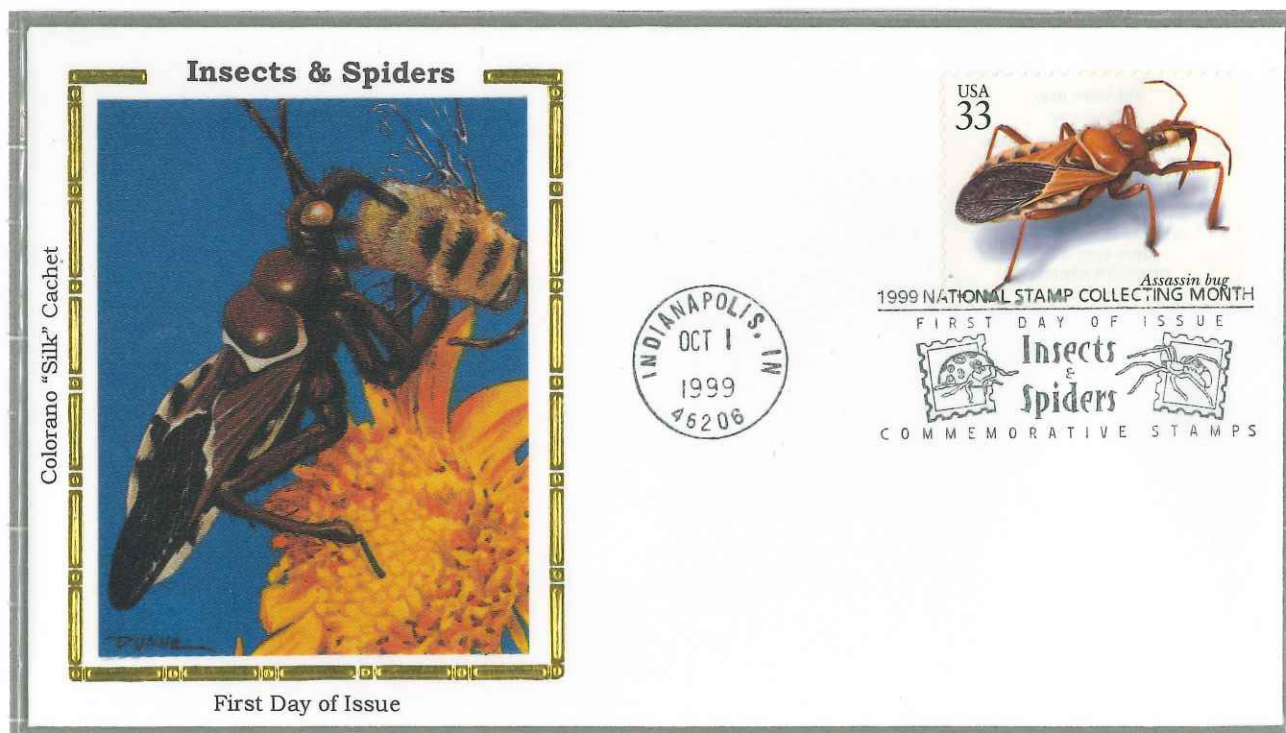


(ガーナ 1991)

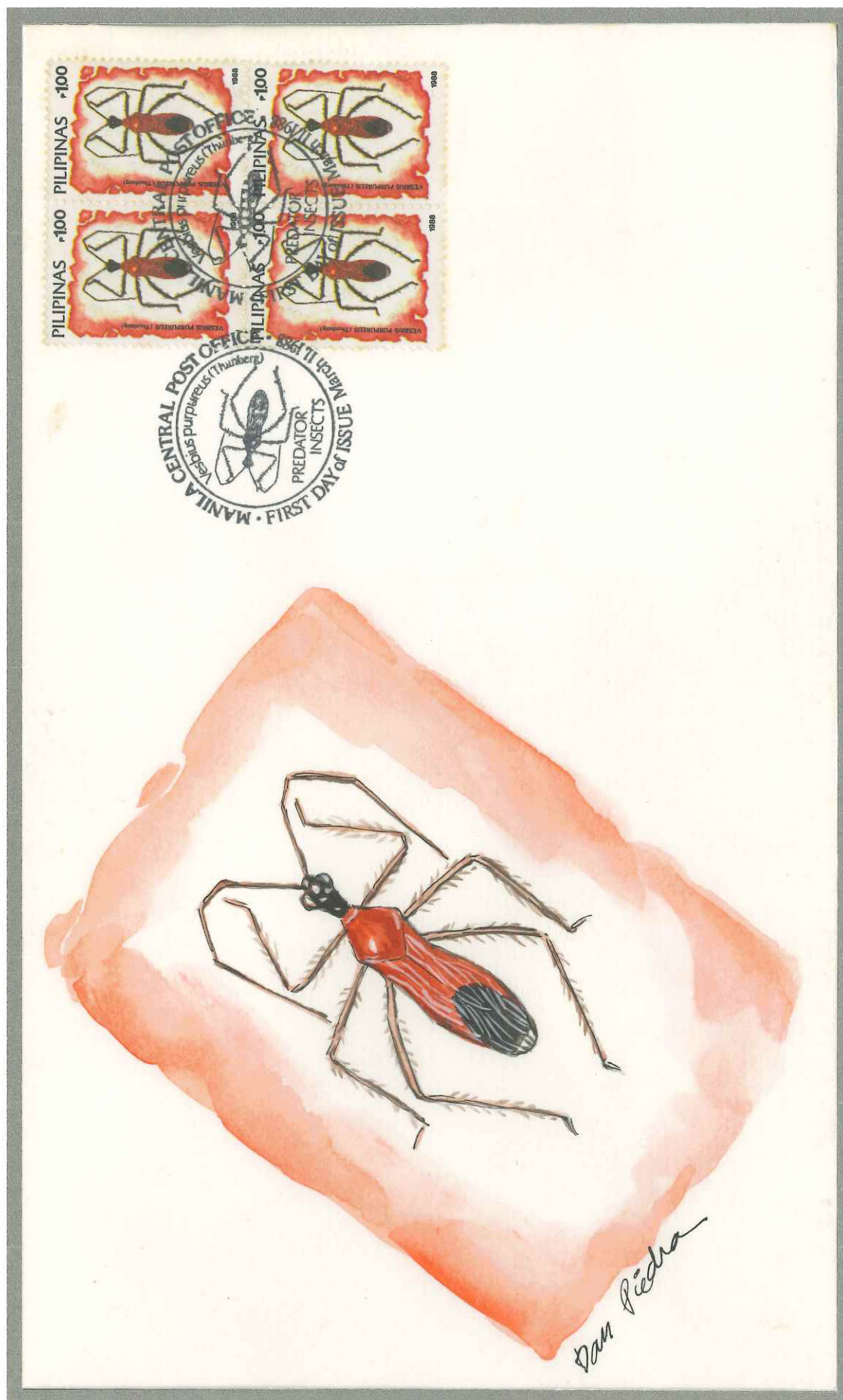


(シリア 1993)

モンシロサシガメの一種



(アメリカ 1999)



(フィリピン 1988)

アメンボ科

アメンボは脚の毛先が水をはじくため水面に浮くことができます。水面に落ちた昆虫などを捕まえ体液を吸収しています。名前は、飴のような甘い臭いがして体つきは棒状であることから「飴棒」が由来です。世界で約700種以上います。大きさは3~26mm程度。

アメンボ



(ポーランド 2013)



(モントセラト 1992)



(見本)



(1993 公用加刷)

ヒメアメンボ



(ウクライナ 2024)



(オランダ 2021)



(ブータン 1997)

ヒメセスジアメンボ



(シンガポール 2011)

タイコウチ科

ヒメタイコウチの一種



(コートジボワール 1978)



(ルーマニア 1993)

タイコウチの一種



(シンガポール 2011)

タイコウチの一種



(*Laccotrephes annulipes* : *Nepidae*)

(モーリシャス 2016)

ミズギワカメムシ科

ヒメセスジアメンボ

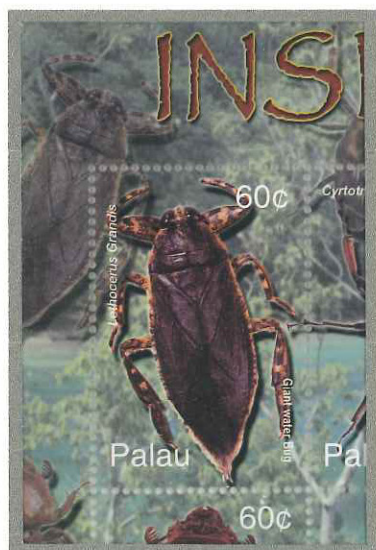


(セントヘレナ 1983)

コオイムシ科

Lethocerus grandis

タガメの一種



(パラオ 2003)



(ベリーズ 1995)



(imprint 1996)



(1996 加刷)

ミズムシ科

コミズムシ



(ポーランド 1999)